

vol.14
2010.08

三菱農機 たより

MITSUBISHI NOUKIDAYORI



30周年記念トラクタ
GX510DX



国はこのたび「食料・農業・農村の基本計画」を策定し、その内容が公表されました。食料の安定確保から、再生産可能な経営の確保、意欲ある多様な農業者の育成・確保、農業・農村の6次産業化など多方面にわたる意欲的な政策が打ち出されています。これらの政策に呼応し、これから全国各地域で様々な新たな事業が展開されます。力強い日本農業の再生を望みたいところです。

今号では、「三菱からのお役立ち情報」として耕作放棄地再生の活動に注目し、再生のための対応作業機械を幅広く紹介しました。対策としての助成事業（耕作放棄地再生利用交付金）などを大いに活用したいものです。

三菱農機では、多様な農業機械の開発、農作業の軽減する機械の開発を通じて、お客様のよりよい農業経営を目指し、さまざまご提案をしております。

新たな「食料・農業・農村基本計画」に見る日本農業の未来設計

農林水産省大臣官房政策課計画班課長補佐 岩間 浩



Profile

農林水産省入省。同省で農業白書、国会、国際関係、広報等の部門を歴任し、現職では食料・農業・農村基本計画を担当。出向中の経済企画庁で政府経済計画の策定に参画し、在シカゴ日本国総領事館で農務官として米国中西部を担当。

食料・農業・農村基本計画は、食料・農業・農村基本法に基づき、政府が今後10年間を見通し、どのような農政を展開するのかを示すもので、本年3月に3度目となる基本計画が閣議決定されました。近年、食料の国際情勢が大きく変化し、「金さえあれば自由に食料が輸入できる」時代ではなくなってきています。また、日本農業は農地の減少、農業者の高齢化、自給率の低迷に直面しています。こうした中、新たな基本計画の策定や執筆の一端を担ったのが大臣官房政策課の岩間浩課長補佐。今回は岩間さんに、基本計画の内容や、今後の日本農業などについて語っていただきました。質の高い農産物を生み出し、バイオや医薬品など農業の新たな可能性を切り拓く上で新技術の開発が欠かせないなど、貴重なお話を伺うことができました。

Q 今回見直された基本計画のポイントは？

A 過去の農政を率直に評価・検証するとともに、2年前の食料の国際需給のひっ迫などを踏まえ、新しい方向として、①農業生産のコスト割れを防ぎ、農業を継続できる環境を整える戸別所得補償制度の創設、②品質や安全・安心といった消費者ニーズに合った生産体制への転換、③生産・加工・販売の一体化など農業・農村の6次産業化が柱となっています。

食料自給率の目標については、平成20年度に41パーセントのカロリーベースの自給率を、平成32年度で50パーセントへの向上を目指すこととしています。

また、今回の計画は、従来とは異なり

メッセージ色が強く打ち出され、例えば、食料・農業・農村政策を日本の国家戦略の一つとする、国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指すといった記述や、「食品安全庁」の検討など、一歩踏み込んだ表現がみられることも特徴です。

Q 自給率をあげる方策としては、どのようなことをお考えですか？

A 自給率は消費に占める国内生産の割合ですから、生産されたものが消費されなければ、カウントされません。このため、生産者の努力だけではなく、消費者や食品産業が国産農産物を積極的に利用していく仕組みが必要です。その一環として、平成20年から「フードアクションニッポン」という国産農産物

を消費拡大する国民運動を展開しています。これは、国産農産物を積極利用する食品企業の認知度が高まり、人々から評価されるよう、我々も広報面で応援していこうとするものです。

中国のゴージャ問題などもあり、この数年で食に安全安心を求める国民意識が急に高まりました。農産物や食品がきちんとした安全管理の下、製造・流通・販売された工程が透明化されることが消費者の安心につながり、農業者の皆様にもプラスになると考えています。

その一つとして、農業の生産工程を農業者の経験と勘だけでなく、具体的に見える形にしていく、GAP（農業生産工程管理）の拡大に取り組んでいくこととしています。

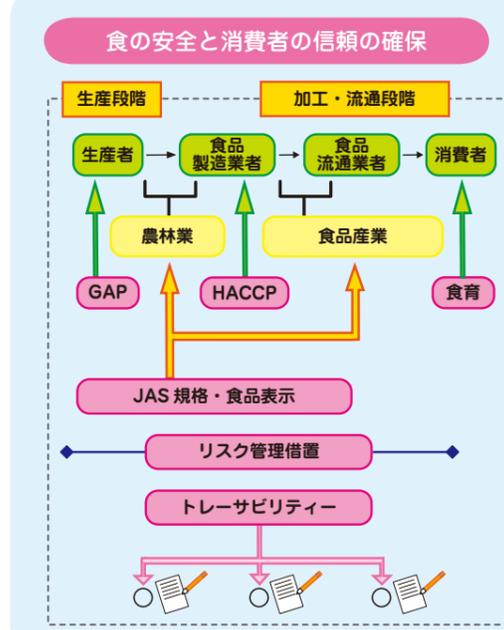
Q 農地や所得も減るなど、農家が厳しい状況に陥っていますが、その対策は？

A マクロベースの農業所得に相当する農業純生産は、平成2年度比で現在約半分の3兆円にまで減っています。その主因は、米の値段が下がったことであり、これ自体は、消費者にはいいことなのですが、米の消費量の減少が続き、生産調整の努力にもかかわらず、米価がコスト割れする状況が続いては、生産者の意欲は削がれてしまいます。これに歯止めをかけて、農業者に農業を続けていただける環境を作ろうとするのが、「戸別所得補償制度」です。

これと併せて、貴重な農地を最大限活用する観点から、今までは主食用米の需給調整のため、水田に何も作付けないことにお金を支払っていた調整水田において、新たな需要である米粉や飼料用米をつくる体制に転換していくこととしています。

Q 農家にとっては、この戸別所得補償制度のことが気かりだと思います。

A この制度については、審議会の議論の過程で、これまでの農業の大規模化の流れを妨げるのではないといった指摘もあったことは事実です。その一方で、米の産出額の6割は、実は副業的農家などによって生み出されており、こうした食料生産を支える方々を政策上どう位置付けるかという話になります。



- ① GAP →産地における取組拡大と取組内容の高度化の推進
- ② HACCP →中小規模層でも低コストで導入できる手法の構築・普及
- ③トレーサビリティ →米穀等以外の飲食物品に対する義務付け等の検討
- ④食品表示 →加工食品における原料原産地表示の義務付け等を着実に拡大

基本計画においては、戸別所得補償制度によって、農業全体の底上げを図りつつ、引き続き、認定農業者制度や経営発展のための施策を講じることで、農業の競争力を強化していこうという考えです。

一方、戸別所得補償制度と併せて、必ずしも経営規模が大きくなって、所得を向上することを可能にする仕組みも必要です。こういう考えの下で位置付けられたのが「農業・農村の6次産業化」です。これは、1次産業に2次産業、3次産業を掛け算とすることで、地域で生み出す付加価値を増やしていこうとするものです。このためには、農業者

は取れたものを農協に出荷して終わりということではなく、所得を増やす観点から、売れ筋を見定めて必要量を作る、パッケージや売り方を工夫するという発想の転換が求められます。

また、絹糸から人工血管を作る、草木からエタノールを製造するなど、農業を軸とした新産業の芽も生まれています。こうした農業の新たな可能性を切り拓くためには新技術の開発が欠かせません。

さらに、農業者の積極的な取組が広がるよう、「農商工連携」等も活かしながら、そのお手伝いをしていきたいと考えています。

おこめ美味歳々

永島 敏行さん



Profile
永島敏行（ながしまとしゆき）さん
1956年、千葉県生まれ。
映画、TV、舞台等で活躍中、現在HNK「産地発地発！食べ物一直線」レギュラー出演中。
2005年「青空市場」を設立。

料理は子供の頃から得意でした。

子供の頃から野球がすきで、巨人軍の長嶋さんはあこがれの的、同じ長嶋でもあり、意識して野球をしていましたね。そのころ家は旅館を営んでいましたので小さい頃からよく調理の手伝いをしていました。お弁当も自分で作りました。生まれは千葉県。海苔の美味しいところですから海苔弁は得意でした。食べ物への関心は小さい頃からありました。食べ盛り、何食べても旨かったですね。場所柄、肉より魚の方が多かった、それも小魚。シラスとか海苔ですね。このでかい体になれたのはカルシウムとかが効いたようです。

農業に興味を持ったのは。

子供の頃、東京湾は遠浅でアサリやハマグリは採れたし、魚も捕れましたよね。自分で食べるものが獲れるという原体験をしています。この経験は貴重です。最近ではできませんし、子供にもさせてあげられないですからね。

秋田の十文字町で行った映画祭をきっかけにして、農家の方

にお米づくりを体験させてもらったんです。自分の体を使って田んぼに小さな苗を植えると、それがちゃんと食べることができると実感できたこと、そして土に触れていると不思議に気持ちが落ち着きました。

農業っていうのは人間の暮らしを支える根幹ですからね。自分にとってもプラスになるなぁと思いました。

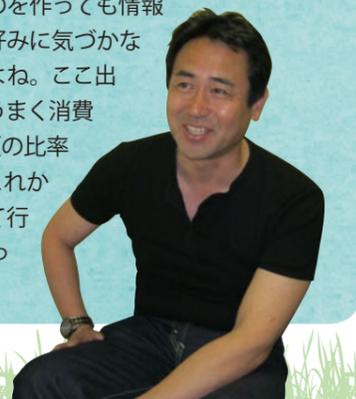
10年くらい前ですが、千葉近郊で米づくり教室というかたちで、体験型農業を始めました。その後、知人から遊休地を紹介されて野菜作りも始めましてチョットだけですが自給自足が味わえるようになりました。自分の子供達も手伝わせてますが、何も無いところから食べるものを作り出すということがどれだけ大変なことだということは伝わっていると思います。

生産者と消費者を結びつけたい。

以前は、八百屋さんや魚屋さんという存在が生産者と消費者とをうまく結びつけましたが、いまはそういう役割をする人達が少なくなっていました。もう少し生産者と消費者を身近な

関係にできないかと思ひまして『青空市場』という交流の場をはじめました。これは各地の生産者が直接消費者と接して情報交換を行いお互いの理解を深めることができる市場です。始めはボランティアでやっていましたが、それでは長続きしないので今は法人組織にしました。月に1回開いています、若手の役者さんが売り子をやってきっかけを作る、あとは生産者が説明をしてくれます、消費者の方も直接話しが聞けるので喜んでます。

農家さんも、折角良いものを作っても情報の発信が少ない、消費者の好みに気づかないことって結構あるんですよね。ここ出てきている生産者の方は、うまく消費者のニーズをとらえて、直販の比率を上げてる方も多いです。これからもこういう場所を提供して行きますと永島さんは熱く語ってくれました。



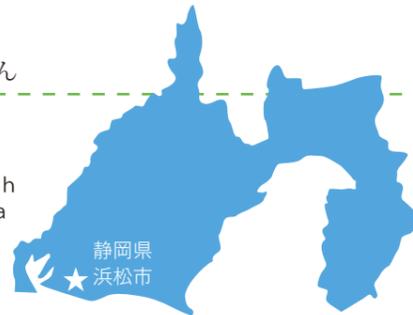
ユーザー紹介①

静岡県
浜松町北区三幸町
みゆき



かわい
河合重治さん

経営規模 野菜単作
ジャガイモ2h
キャベツ50a



親子二代でジャガイモ作り 徹底した深起こしでジャガイモに適した土を

5月から7月にかけての最盛期には人を雇っても出荷に間に合わないほど忙しい



河合さんはハウス物もやっているの、植付け、掘りあげ、と一年中休む暇もない

浜松市の北部にある三方原^{みかたばら}は、戦後満州などから帰国した人たちによって開拓された土地で、北海道など全国各地にある開拓地のひとつです。ここは天竜川の扇状地が隆起した台地のため、畑作に限られ、開拓には大変な苦勞したそうですが試行錯誤してジャガイモ栽培を始め、今では三方原馬鈴薯の産地として全国的に有名になっています。

河合重治さんも、父親が入植してから二代にわたってジャガイモ作りに励んできましたが、今では地域でも屈指の生産者になっています。

河合さんがこだわっているのは土作り。『三方原馬鈴薯』の芋の肌。全国的にみても肌にこだわっているのはここだけでしょう。そのために、天候状況を常にリサーチし、微妙な水加減、堆肥の調整などを怠りません。

「毎年トラクターで深起こし、肥料設計も工夫し、漸くジャガイモに適した土になっていきました」と誇らしげです。

連作障害を防ぐため 収穫後にキャベツを栽培

北海道のジャガイモ産地では一年に一作ですが、ここではジャガイモを収穫したあとに野菜を作ります。

「ジャガイモは連作障害を起こすので、アブラナ科の野菜を作るといいのです。うちではキャベツを作っています」

三方原では、風乾^{ふうかん}といって掘ったジャガイモを三日間暗所で乾かしてから出荷します。そうすると青く変色しません。

河合さんたち生産者は三方原馬鈴薯というブランドを守るため、共販委員会というものを結成し、徹底した品質管理しています。風乾しているかどうか、デンプン価を満たしているか、などをチェックしています。

生産者の8割が参加している共販委員会の眼が、生産者同士の切磋琢磨につながっているのです。

ユーザー紹介②

愛知県
岡崎市駒立町
こまだち



やとうのりひと
矢頭徳仁さん(47歳)

経営規模 米・麦・大豆作
米8h a/麦13h a
大豆13h a



愛知県岡崎市の北部にある駒立町は、標高が150～200メートルと高い中山間地。この地で作業受託を中心に米作りに励んでいるのが矢頭徳仁さんです。

矢頭さんの経営は作業受託が多く、田植えは60軒から、収穫作業は120軒から受託し全体で20haにもなります。これほどの件数を受託しているのは岡崎市でも矢頭さんくらいです。これだけの作業を奥さんと二人でこなせるのも、機械があるから。

「機械なしでは、とてもこれだけの受託はできませんね」規模だけではありません。駒立町は中山間地で、平均耕作面積が20アール弱と狭いので、矢頭さんは機械を移動させるにも一苦勞なのです。

そんな苦勞をしながらも、専業農家として継続しているのは、「自分がやらねば」という思いを持っているからなのです。

鳥獣被害対策が課題。 地域の農業を絶やさないう頑張る。

耕作している地域は「中山間地で水もきれいで、そのうえ手間を掛けてつくりますので、それはおいしいお米ができますよ」と矢頭さん。

でも、このところの悩みは獣害(注)だといいます。イノシシやシカが出てきて作物を食いあらしめます。せっかくの一年努力が実る頃、イノシシに田を荒らされてしまいます。



左から奥さんの矢頭浩子さん、矢頭さん、山本機械販売・山本社長。

機械化による規模拡大 地域の中核農家に成長



秋は終日、ほかの季節は夜間だけ電気柵に電気を流している。



その被害を食い止めるために、電気柵を張るなどして防いでいます。鳥獣が出るということは、それだけ自然に恵まれた土地だということ。

そんな水田で作る米だから、当然味はいいのです。矢頭さんは顧客のニーズに応じて有機減農薬の米も栽培しています。

「これが、アトピーにいいとかで、人気があるんですよ」顧客に喜ばれることが、矢頭さんの生きがいになっているようです。

また、「この地域の農業を絶やさないう、出来限り努力を惜しまないと矢頭さん。

(注)愛知県の08年度鳥獣による農作物被害額は約5億6千万円と言われ、年々増加傾向にあります。イノシシ、シカ、サルの3獣被害が8割、鳥類が2割を占めています。森林の減少や放棄農地が増え、獣類の活動範囲が人里へ接近して、被害を広げているといわれています。

稲・大豆・麦栽培の大幅省力化を実現する三菱乾田不耕起直播栽培

作物収穫後の乾田に、播種部分の7cm幅だけ浅耕して施肥・播種する三菱乾田不耕起直播栽培。稲・大豆・麦栽培の省力化・低コスト化を実現し、大規模栽培に威力を発揮します。

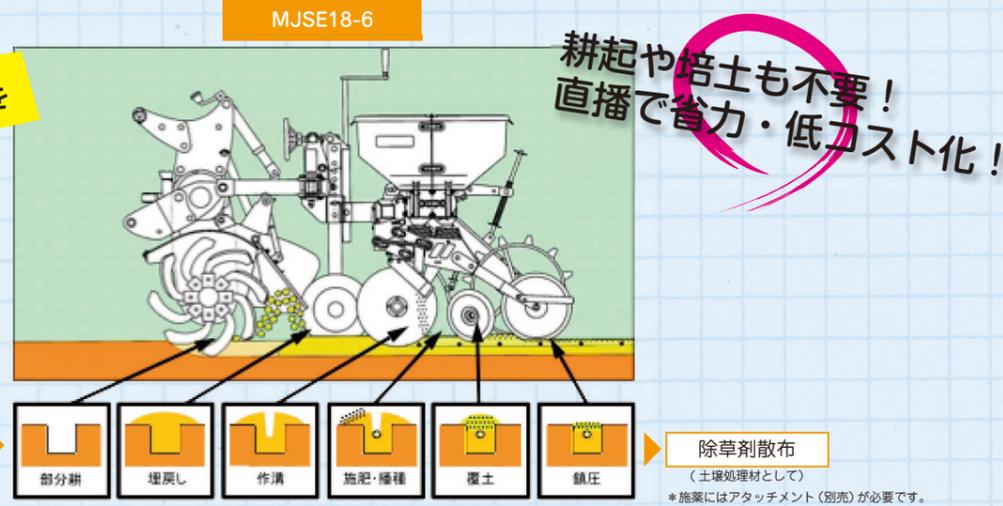
この導入メリットに注目!

稲・大豆・
麦作では・・・
MJSE18-6

- ① 適正な播種深の確保による発芽率の向上!
簡単に播種深(2~3cm)が調整でき発芽率が向上します。
- ② 規模拡大が可能な省力栽培!
慣行栽培と比較し中耕・培土作業が不要な栽培技術ですので、大規模化による展開で単位面積当たりのコストを低下させることが可能です。

播種作業の流れ

MJSE18-6がこれらの作業を一挙に行います!



大豆作では・・・
MJSE18-6FR

- ① 倒伏に強い播き溝!
長方形の溝に播種するため、作物が成長する過程で溝壁が倒伏防止の役目をします。
- ② 狭畦(30cm)による中耕・培土不要な栽培
作物の成長に伴い大豆が繁茂し、条間への日光の透過を遮るため、雑草の成長を抑制し、中耕・培土作業不要となり、省力栽培に貢献します。
- ③ 最下着莢位置が高い
最下着莢位置が高いことでコンバイン収穫時の土による汚粒が発生しないうえ、コンバインへの負荷が軽減され、効率的な作業が可能です。



- ポイント① 額縁排水溝を準備し、圃場内に排水溝を設置するなど排水対策を確実に行う。
- ポイント② 倒伏しないよう1株1粒、株間15cm前後で播種する(大豆)。
- ポイント③ ①緩効性肥料(チッソ)のみの場合は播種溝へ施肥する。②速効性肥料の場合は側条へ施肥し、覆土と共に播種へ。(大豆)
- ポイント④ 栽培前期は除草剤を使用し、適期に確実な除草をする。その後は大豆が繁茂して雑草の発生を抑制します。(大豆)



作業跡のイメージ図(1条のみ記載)

倒伏に強い播き溝 発芽率の向上
長方形の溝に播種するため、作物が成長する過程で溝壁が倒伏防止の役目を果たし、密植栽培を可能にします。簡単に播種深(2~3cm)が調整でき、発芽率を向上させることができます。

事例

組合の経営安定化には乾田不耕起直播栽培の確立が不可欠です

愛媛県西条市
農事組合法人 妙口原生産組合



赤堀 保 組合長

常駐組合員 6名
栽培面積 麦(マンネンボシ)28ha
大豆(フクユタカ)21ha
水稻(保有米のみ)7ha



32haに上る麦・大豆の生産

愛媛県西条市は水はけのよい土地柄から、昔から水稻の裏作に麦栽培が盛んな地域です。その小松町内の40戸の農家をまとめているのが、妙口原生産組合です。

「生産法人化したのは平成16年。組合員の圃場で生産する作物をプール計算し、面積に応じて平等に売上を分配する方式をとっています」とおっしゃるのは、組合長の赤堀保さんです。

組合が受託栽培しているのは、麦と大豆。そのほか、各農家の保有米だけ水稻を栽培しています。

「毎年2~3haほど受託面積が増え続け、昨年は28haに上りました。今年の作付けは32haになります」(赤堀さん)。この集落の全圃場面積は36haといえますから、妙口原生産組合が地域の農家から絶大な信頼を得ていることがうかがえます。



平成19年に導入した2台の大豆・麦兼用コンバイン。



省力化の決め手として乾田不耕起直播を導入

「生産組合として経営をいかに安定させるかが、最も重要なテーマ」と赤堀さんは厳しい表情を見せます。「そのためには可能な限り作業の省力化を図り、人件費を削減する必要があります。そこで着目したのが、乾田不耕起直播栽培です」(赤堀さん)。

そして、農事試験場の指導員のアドバイスを受けながら、一昨年から三菱農機の実演機を用いて検証し、今年、導入に踏み切られました。

「もともと反収が高かったこともあり、まだ慣行栽培に比べて収量がやや少ないところが改善点として残っています。それでも、2年間の検証で排水対策の施し方や条間の取り方など栽培のポイントはわかってきました。乾田不耕起直播栽培の利点を活かしながら、収益性を上げる栽培法を確立していくことが今後の課題。この地域の基盤整備の計画もようやく具体化してきましたし、乾田不耕起直播栽培が組合の経営安定化のカギを握っているのは間違いありません」と赤堀組合長は強い意欲をのぞかせました。



乾田不耕起直播機に寄せる組合員の期待は大きい。

茨城県園芸研究所、大手ゼネコンのハザマ、三菱農機が共同開発した **新型マット給液栽培装置**

少量・多品目の同時栽培が可能。作物が必要とするだけの養液供給。

少量・多品種の同時栽培が可能。作物が必要とするだけの養液供給。

茨城県農業総合センター園芸研究所と大手ゼネコンのハザマは、約5年前から新しいマット給液栽培装置の開発に取り組んでいました。その実用化にあたり、三菱農機が全面的に技術協力し、販売を開始しました。従来の装置に比べて生育の揃いが良く、長時間鮮度を保てる根付き野菜を栽培できることが主な特長。また、栽培装置がシンプルのため、初期費用が抑えられるのも大きなメリットです。



従来の水耕栽培より格段にシンプルになった養液作成装置と栽培管理装置



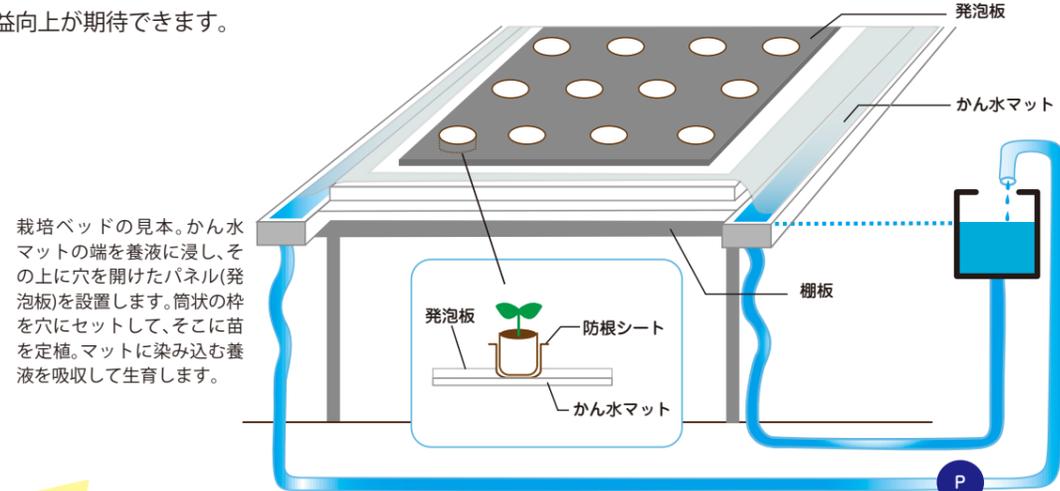
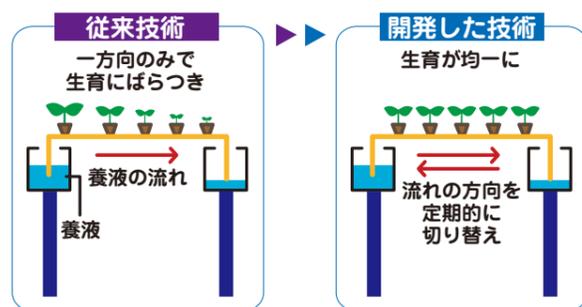
苗を定植した筒状の枠の底部は防根シートに覆われているので、枠内の少量の培土に根を張るだけでそれ以上広がりにくいです。根付きのまますぼりと収穫することも可能で、鮮度の保持など作物の付加価値の向上につながります。



リーフレタスや小松菜、水菜、ほうれん草、ルッコラ、バジルなどさまざまな作物が容易に栽培できます。技術習得の上、高糖度トマトも栽培できます。

「新型マット給液栽培装置」のしくみ

従来のマット給液栽培は、養液の流れが一方のみで野菜の生育にバラツキが出るという難点がありました。新型装置では、養液の流れの方向を定期的に切り替える技術を導入し、生育の揃いを良くしました。この新技術によって均一な高品質の野菜の大量生産が容易になり、生産者の収益向上が期待できます。



特長

- 作物が必要とするだけの養液を供給するため、大型タンクが不要で管理も容易。また、排液も出ません。
- 栽培方法、装置ともシンプルで、高品質の葉菜を周年栽培できます。
- 生育の揃いが良く、均一な品質を容易に確保できます。
- 多様な種類の葉菜を栽培できるため、市場ニーズに合わせた栽培品種の選択ができます。
- 播種から収穫まで無農薬で栽培でき、安全・安心な作物が栽培できます。
- 栽培ベッドがユニット式のため、ハウスや栽培空間の形状に合わせて容易に増設できます。

栽培ベッドの配置例(下図)と栽培行程例(上図)

栽培回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
①	●(A1)	▼(B1)	■(C1)	×													
②		●(A2)	▼(B2)	■(C2)	×												
③			●(A1)	▼(B1)	■(C3)	×											
④				●(A2)	▼(B2)	■(C1)	×										
⑤					●(A1)	▼(B1)	■(C2)	×									
⑥						●(A2)	▼(B2)	■(C3)	×								
⑦							●(A1)	▼(B1)	■(C1)	×							
⑧								●(A2)	▼(B2)	■(C2)	×						
⑨									●(A1)	▼(B1)	■(C3)	×					
⑩										●(A2)	▼(B2)	■(C1)	×				

●播種 ▼鉢上げ ■移動 ×収穫

第三段階 (C)
(15×11=165株)
C1

第二段階 (B)
(54×2=108株)
B1

第一段階 (A)
(A1,A2 最大450粒)

従来にない多くの特長を持つ 新開発のマット給液栽培装置。 その利点をアピールし、普及させていきたい。



株式会社間組 技術・環境本部
技術企画グループ長
谷口裕史 さん

園芸研の新しい給液マット方式に着目

ハザマが新規事業として農業分野を研究し始めたのは最近のことです。従来より植物栽培技術に感心がありましたが、先に開催された「アグリビジネスフェア2006」で、茨城県農業総合センター園芸研究所が展示していた給液マット方式の栽培方法に着目しました。それが今回の共同開発のきっかけでした。栽培装置の実用化にあたり、三菱農機さんに共同開発の仲間に加わっていただきました。

もう一つの方法ですが、季節や消費者の嗜好の変化をとらえながら、市場ニーズにマッチした作物を的確かつ迅速に供給することは市場価値の高い作物の生産につながります。この新しいマット給液栽培装置であれば、そうした柔軟な生産が容易に行えます。

農家はもとより、各方面で関心と呼ぶ

現在、農家さんはもとより、閉鎖した工場や店舗にこの装置を導入して植物工場が造れないかなどの引き合いが複数寄せられています。また、地産地消になぞらえ店舗消費も考えています。

安全で安心な作物の安定供給は、社会の大きなテーマです。この画期的なマット給液栽培装置は、そうしたニーズにお応えできる広い可能性を持つとともに、生産者の方々のお役に立てる新しい生産システムであると確信しています。三菱農機さんと力を合わせてこの装置を普及させていくこと、それが私たちの今後の大きな課題です。

導入コストは従来と比較し約3割減

新開発したマット給液栽培装置の新しさは、養液をどの株の根にもくまなく均一に供給できるようにしたところにあります。また、装置がシンプルのため、設置費用が抑えられるという利点もあります。従来装置と比較しておよそ3割ほど低コストで導入できるのではないのでしょうか。

さまざまな種類の葉菜を容易に栽培できることもポイントです。同じ種類の作物を効率的に大量生産するの

耕作放棄地再生の活動に注目

耕作放棄地再生利用交付金を活用しよう。 三菱農機は耕作放棄地の再生に総合力で応えます。

機材のレンタルをご希望される場合は最寄りの(株)MAM レンタル営業所までお問い合わせください。

耕作放棄地再生利用交付金に係る事業実施方法

事業実施主体

都道府県耕作放棄地対策協議会
地域耕作放棄地対策協議会(ブロック協議会)

構成員

都道府県・農業委員会・全中・都道府県土連
市町村・農協・市町村土地改良区・市町村農業公社
必要な場合は地域協議会員となること・・・普及指導センター

耕作放棄地再生の流れ

再生作業

- ① 障害物除去
- ② 深起
- ② 整地

土壌改良

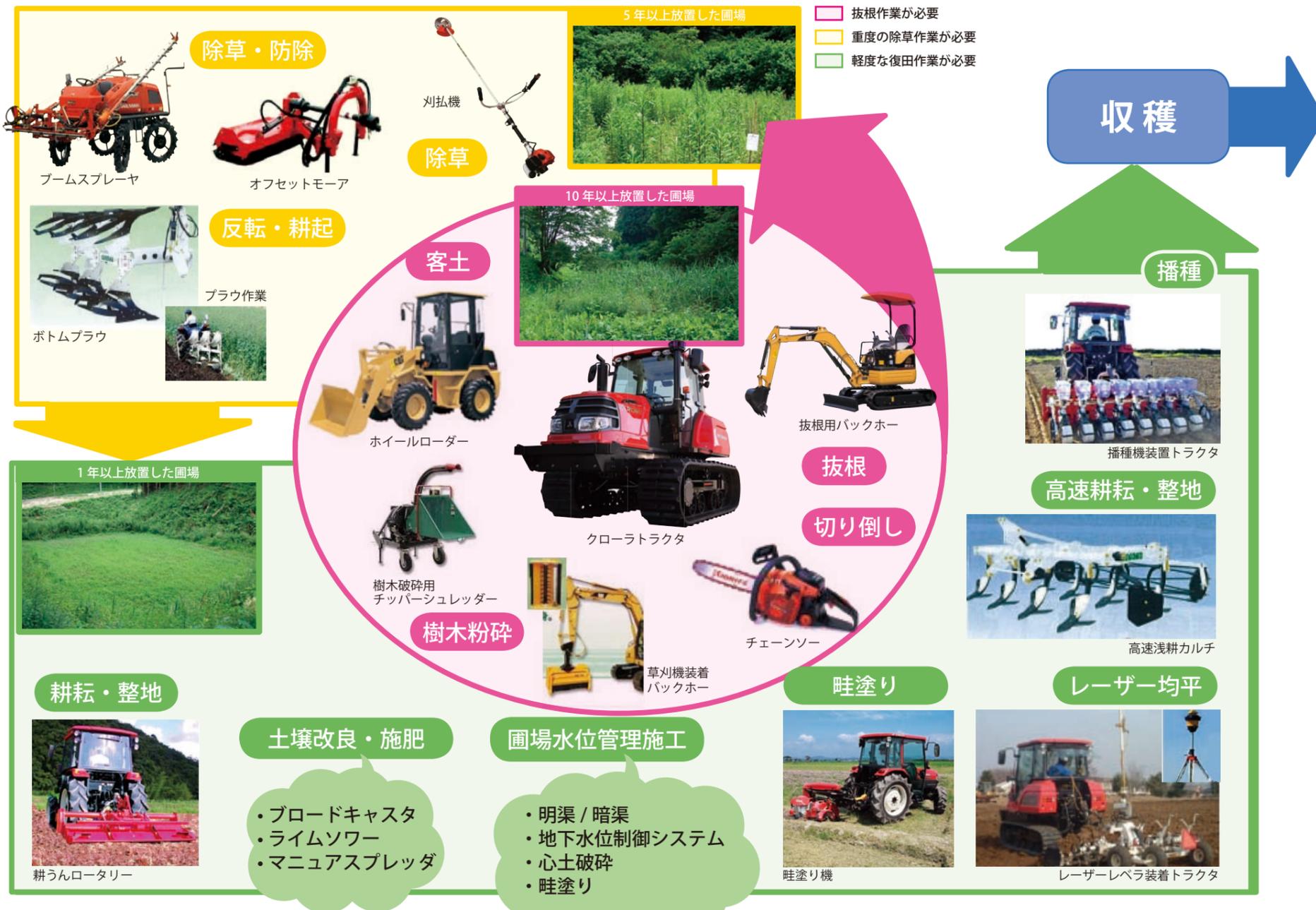
- ① 肥料
- ② 有機質資材の投入
- ③ 緑肥作物の栽培

営農定着

- ① 営農資材等の調達
- ② 導入作物の絞込み
- ③ 適正確認

経営展開

- ① 経営相談・指導
- ② 実証圃場の設置・運営
- ③ マーケットリサーチ



新規需要米(米粉用、飼料用、発酵粗飼料用稲)の作付

- 濃厚飼料・米粉
- 粗飼料・敷料
- 稲発酵粗飼料

麦・大豆などの戦略作物の作付

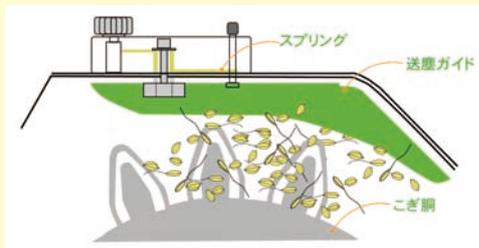
- 大豆300A・地産地消

新商品紹介

三菱2条刈 「省エネ」コンバイン VMA215/217

全面刈りだから刈り方自由自在。
送塵量自動調節機能搭載
大幅に省エネ運転のコンバイン。

三菱コンバインVMAは2条刈コンバインのイメージを大きく変えました。2条刈なのに刈幅950mmとゆったり、これで3条刈が可能となりました。しかも、全面刈りから、中割・畦際刈・逆刈もでき刈り方は自由自在です。(独)農研機構・生研センターと共同開発の送塵量自動調節機能は脱穀性能を飛躍的に向上させ、燃料の消費量を大幅に削減しました。省エネ時代のコンバインの登場です。



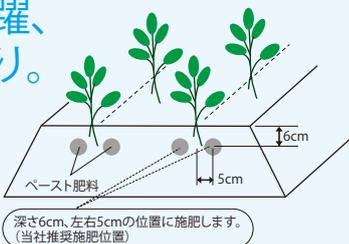
室内の負荷に応じて送塵ガイドを自動調節脱穀負荷を低減。従来機より約9%もの燃費削減を実現しました。



全面刈・刈幅950mm踏み代を気にせず、きれいな刈取作業。

情報コーナー

高品質野菜作りに大活躍、 高機能施肥機ここにあり。



いま、野菜作り農家から注目を浴びている多機能作業機が「三菱うね立て同時ペースト局所施肥機HPST-4」です。ペースト肥料を作物の局所に注入するため、肥料の流亡がしにくく、均一な玉揃いの作物栽培ができ、安定生育で一斉収穫が可能になります。全層施肥方法に比べて、必要な個所に効率的に施肥するため、従来方式に比べて大幅に減肥が実現できます。高品質野菜作りに頼もしい味方ができました。お試しください。(ロータリ、整形器、マルチは別売品)

読者プレゼント

ご愛読 ありがとうございます。

ご自身でも農業体験をもつ、俳優「永島敏行」さんの色紙と万歩計を抽選で3名様にプレゼント。はがきで下記宛に応募ください。



万歩計

応募締め切り 2010年9月末
応募先 〒141-0031東京都品川区西五反田1-5-1
三菱農機営業本部「三菱農機だより編集室」

前号の当選者は下記の通りです。おめでとうございます。

- 山形県鶴岡市 佐藤正子様
- 宮城県東松島市 小野富士夫様
- 富山県小矢部市 米永清一様



三菱農機株式会社

本社 鳥根県八束郡東出雲町大字揖屋町667-1 ☎0852(52)2111
営業本部 東京都品川区西五反田1-5-1 五反田野村證券ビル ☎03(5759)8060

東日本三菱農機販売(株) 埼玉県久喜市桜田2-133-4 ☎0480(58)9524 西日本三菱農機販売(株) 岡山県瀬戸内市邑久町豆田161-1 ☎0869(24)0805
北海道支社 ☎0123(22)1234 関東甲信越支社 ☎0480(58)9521 北陸支社 ☎0776(27)3078 九州支社 ☎0942(84)1888
東北支社 ☎022(364)1188 東海支社 ☎052(419)6721 西日本支社 ☎0869(24)0820